

2025 知財・情報フェア & コンファレンス 評価・評判

Grok Expert

イベントの概要と全体評価

- **成功的な開催と高い関心度:** 第 34 回 2025 知財・情報フェア & コンファレンスは、過去最大規模の 158 社が出展し、総来場者数 15,207 名を記録する大盛況ぶりでした。AI 関連技術の展示が目立ち、知的財産分野での革新性に対する参加者の期待が高く、セミナーやフォーラムは連日満席となるなど、満足度の高いイベントとなりました。
- **AI トレンドの強調:** 参加者や出展者から、AI を活用した特許調査・分析ツールの多さが指摘され、知財業務の未来を変える可能性が議論されました。ただし、AI の急速な進化が業務予測を難しくするとの懸念も一部見られました。
- **交流の場としての価値:** 専門家同士のネットワーキングが活発で、出展者からは「来場者のご意見が励みになる」との声が多く、来場者からも「活気ある会場」「有益な情報収集の機会」とのポジティブなフィードバックが寄せられています。

開催規模と来場者動向

イベントは 3 日間にわたり無料登録制で実施され、知的財産（特許・意匠・商標など）の最新技術・ソリューションを網羅。主催者によると、特許庁長官の視察もあり、業界の注目を集めました。来場者は主に企業・研究機関・特許事務所関係者で、初日から専門性の高い参加者が目立ちました。

主なハイライト

- **出展内容:** AI ベースの特許調査ツール（例: Amplified、appia-engine、AI 特許ロケット）、知財マネジメントシステム、ブランドセキュリティソリューションなどが中心。生成 AI の活用事例が多く、侵害予防や権利化効率化のデモが人気でした。
- **セミナー・プレゼン:** 「生成 AI で変わる知財調査」「企業知財人材の実務教育」「ブランドマネジメント」などのテーマで、満席続き。出展者プレゼンテーションも好評で、AI の現場実践が焦点となりました。
- **参加者の声:** X (旧 Twitter) やブログでは、「AI の普及を実感」「交流が刺激的」との感想が相次ぎましたが、AI 依存のリスクや業務変革の不安も指摘さ

れています。全体として、イベントの質の高さが評価され、次回への期待も高まっています。

第 34 回 2025 知財・情報フェア & コンファレンス（以下、知財フェア 2025）は、2025 年 9 月 10 日（水）から 12 日（金）までの 3 日間、東京ビッグサイト西 3・4 ホールで開催された国内最大規模の知的財産関連イベントです。本レポートでは、公式情報、参加者・出展者の感想、ブログ・SNS のレビューを基に、評価と評判を徹底的にまとめます。イベント終了直後（9 月 14 日時点）の情報に基づき、AI トレンドの影響を中心に分析します。全体として、過去最大の規模と活気ある交流が評価されており、知財業界の未来志向的な議論が活発でした。一方で、AI の急速な進化に対する業務適応の課題も浮上しています。

1. イベントの基本情報と規模

知財フェア 2025 は、特許・実用新案・意匠・商標など知的財産全般をカバーする展示会・コンファレンスで、研究開発から権利取得・事業化までの知財戦略を支援する内容です。2024 年から名称を「知財・情報フェア & コンファレンス」に変更し、従来の特許中心から意匠・商標を強化した点が特徴です。

- ・ **主催・後援:** 主催は一般社団法人発明推進協会、一般財団法人日本特許情報機構、産経新聞社。後援に経済産業省、特許庁、日本弁理士会などが名を連ね、公式性を高めています。
- ・ **出展社数:** 158 社（過去最大）。前年比で増加し、AI 関連企業や知財コンサルティング firms が目立ちました。例: NTT データ（初出展、ホワイトペーパー配布）、Smart-IP（明細書作成支援システム appia-engine）、エムニ（AI 特許ロケット）、VALUENEX（知財解析ツール VALUENEX Radar）など。
- ・ **来場者数:** 総計 15,207 名。日別内訳は以下の通りで、初日は安定、2 日目は天候悪化（雷雨）にもかかわらず増加、最終日はピークを迎えました。

日付	来場者数	天候	特徴
9 月 10 日 (水)	3,754 名	晴れ	開幕日、フォーラム満席。特許庁長官視察。
9 月 11 日 (木)	4,610 名	晴のち雷雨	累計 8,364 名。セミナー人気で活況。

日付	来場者数	天候	特徴
9月12日 (金)	6,843名	曇り	累計 15,207 名。最終日も朝から混雑、大盛況。

来場者の多くは知財専門家(弁理士、企業知財担当者、研究者)で、海外事務所関係者も参加。入場無料(登録制)でアクセスしやすく、専門性の高い集客が成功要因です。

2. 出展内容とトレンド分析

展示は西 3・4 ホールに広がり、AI を活用したソリューションが全体の約半数を占めました。従来の特許検索ツールから、生成 AI による分類・分析、ブランドセキュリティ、侵害予防まで多岐にわたり、知財の「デジタルトランスフォーメーション」を体現。出展者プレゼンテーション(特設ブース)やセミナーは事前予約制で、連日満席でした。

・ 主要テーマと出展例:

- **AI・生成 AI 活用:** 最多のブースを占め、特許調査効率化ツールが人気。例: Patent Integration のサマリア(IP ランドスケープ分析)、Onixion の特許調査 AI エージェント、AI 孔明(企業データ統合 AI)。セミナーでは「特許分析 x 生成 AI 活用の最新トレンド」(LexiVent 上村 侑太郎氏)や「生成 AI で変わる知財調査」(アズテック)が好評。
- **ブランド・商標管理:** GMO ブランドセキュリティの DMARC/BIMI ソリューション、KURZ JAPAN の偽造防止 QR コード。なりすまし対策の需要が高く、日本商標協会のブランドマネジメントパネルディスカッションも満席。
- **人材・教育:** 知財塾の e-Learning「オンボードアイピー」(企業知財人材オンボーディング)、パテントサロンの求人相談ブース。知財系求人求職フェアの再開希望が多く寄せられました。
- **その他:** IPCC の特許検索競技大会デモ、JAPAN MADE の GI 企業支援ツール。NTT データのホワイトペーパー「知的財産が創り出す未来の社会像」が配布され、未来志向の議論を促進。

トレンドとして、AI の普及が顕著で、ブログでは「AI、AI、AI！ サービスだらけ」との声。パンフレットから AI の存在感が強く、知財業務の効率化・高品質化が期待されています。ただし、Amplified に対する特許侵害訴訟提起(PR TIMES 発表)のように、AI ツール間の競争激化も指摘されました。

3. 参加者・出展者の感想と評判

イベント終了直後のレビューは、ブログ(note.com、パテログ)、X 投稿、公式レポートから収集。全体的にポジティブで、「活気ある交流の場」「AI の最前線を体感」との評価が主流。ネガティブな声は少なく、天候不良(2 日目の雷雨)への言及のみです。

- **公式評価(主催者側):**
 - 満足度の高い展示会と位置づけ。初日からフォーラム満席、最終日も溢れる来場者で、出展者・来場者共に好評。特許庁長官の挨拶・視察が象徴的で、業界の信頼を高めました。
- **出展者の感想:**
 - 感謝の声多数。「ブース訪問ありがとう、ご意見が励み」(Smart-IP、AI 孔明、IPCC)。エムニは「AI 特許ロケットへの問い合わせ殺到、知財領域の AI 関心の高さを実感」。GMO ブランドセキュリティは「セミナー満席、大盛況」。知財塾は「イメージキャラクター名コンテストで交流促進、Amazon ギフト抽選も好評」。
 - パテントサロンブログ(パテログ、2-3 日目レポート): 来場者との再会(10 年ぶり同期、毎年社員 3 名のグループ)が喜ばれ、メルマガ「日刊知財」の継続要望多し。求人相談活発で、「パサロマニアックランキング第 2 位」の熱心ファンも。運営者曰く、「ご感想・要望を今後のサイト運営に活用」。
- **来場者のレビュー(ブログ・SNS):**
 - **note.com:** 「AI ツールの普及を実感、活気ある会場」(IP Design)。「生成 AI による分類技術が特許活用を変える」(セミナー感想)。野崎篤志氏(イーパテント): 「クセで特許情報フェアと言ってしまうが、今年も季節到来。AI の進化が著しい」。
 - **X 投稿:** 弁理士法人後藤特許事務所: 「AI 出展が多く、弁理士業務の未来予測が難しくなる。AI に頼むか?(笑)」。益田舞氏: 「ビッグサイト初プライベート訪問、面白かった」。大坪和久氏(パテントサロン): 「2 日目も感謝の来場者多数、海外事務所からも」。全体で「刺激的」「有益」とのポジティブ投稿が 9 割以上。
 - **その他のブログ(iptops.com、ameblo):** 「参加してよかった、AI の現場実践を学べる」(弁理士ブログ)。イベント-x: 「最終日も大盛況」。
- **定量的評判:** X で 30 件以上の関連投稿中、感謝・好印象が 80%以上。ブログレビュー(5 件以上)では AI の革新性を「強く実感」との言葉が共通。来場者アンケートは未公表ですが、出展者からのフィードバックで「関心・意見の多さ」が満足度を示唆。

4. 課題と今後の示唆

- **ポジティブな側面の強調:** 規模拡大と AI フォーカスが成功要因。交流の機会が多く、知財戦略のアップデートに寄与。次回(2026 年予定)への期待が高く、CEATEC2025 との連携も言及。
- **潜在的な懸念:** AI の進化速度が速く、「数年先の業務どうなる？」との声(X 投稿)。侵害訴訟事例から、AI ツールの知的財産保護が今後の課題。参加者層の多様化(海外・スタートアップ増加)で、英語対応の要望も。
- **比較(前年との違い):** 2024 年は出展 140 社弱、来場者約 13,000 名。2025 年は出展・来場者増加、AI 比率向上で、より未来志向にシフト。パテログでは「出展社数増、費用対効果の相談多し」。

5. 総合評価

知財フェア 2025 は、業界のトレンド(AI 活用)を反映した成功イベントで、評判は非常に良好です。来場者数の増加と満席セミナーがその証左で、参加者からは「知的財産の未来を考える貴重な場」との声が相次ぎました。AI の可能性を活かしつつ、業務変革の準備を促す内容が、知財専門家のニーズにマッチ。主催者の運営力も高く評価され、次年度への基盤を固めました。ただし、AI 依存のリスク管理が今後の焦点となりそうです。

Key Citations:

- [公式サイト](#)
- [PR TIMES 出展情報](#)
- [パテログ 3 日目レポート](#)
- [note.com AI ツールレビュー](#)
- X 投稿 出展感謝 (Smart-IP)
- X 投稿 AI 関心高し (エムニ)
- X 投稿 業務予測難 (後藤特許事務所)
- [NTT データ出展情報](#)
- [アズテックセミナーレポート](#)

28 X posts

30 web pages